

3 調査会審議経過

【国際問題に関する調査会】

(1) 活動概観

〔調査の経過〕

本調査会は、第124回国会の平成4年8月7日（金）に設置されて以来、3年間にわたる調査活動のテーマとして設定した「21世紀に向けた日本の責務」について、政治、経済、文化等幅広い観点から調査を行ってきた。今国会においては、これまでの調査を踏まえ、最終年を迎えるに当たって設定した「アジア太平洋地域の平和と繁栄に向けて」のテーマの下、アジア太平洋地域における信頼醸成の構築、国際文化交流の推進及び政府開発援助（ODA）の在り方について調査を進めた。

今国会の会期中、調査会は2回行われた。まず、平成6年11月2日（水）に平山郁夫君及び青木保君の両参考人から国際文化交流の推進について、また猪口孝君、西原正君及び前田哲男君の各参考人からアジア太平洋地域における信頼醸成の構築について、それぞれ意見を聴取し、質疑を行った。次いで、11月9日（水）に松井謙君及び鷺見一夫君の両参考人から政府開発援助（ODA）の在り方についてそれぞれ意見を聴取し、質疑を行った。

また、11月9日（水）の調査会において、第130回国会閉会中の9月12日（月）から14日（水）までの3日間にわたって行われた委員派遣の派遣報告を聴取した。

〔調査の概要〕

1. アジア太平洋地域における信頼醸成の構築

調査会では、21世紀初頭のアジア太平洋地域の平和と繁栄のための条件、アジア太平洋地域における信頼醸成の努力、ASEAN地域フォーラムの意義と問題点、地域の信頼醸成構築における日本の役割、信頼醸成措置導入の必要性、ロシア、東南アジア及び太平洋諸国に対する信頼醸成措置導入の意義等について論議が行われた。

2. 国際文化交流の推進

調査会では、平和と文化の手段による国際貢献の意義、アジア太平洋地域における情報文化基地としての日本の役割、文化財保存修復センター、アジア太平洋情報文化センター及び高等学術研究センターの設置の構想、留学生受け入れ制度及びアジア太平洋地域への留学制度の充実、異文化及び外国語教育の充実等について論議が行われた。

3. 政府開発援助（ODA）の在り方

調査会では、ODA政策の課題、ODAの現状と問題点、ODA基本法制定の意義とその問題点等について論議が行われた。

（2）調査会経過

○平成6年10月6日（木）（第1回）

理事の補欠選任を行った。

国際問題に関する調査のため必要に応じ参考人の出席を求めることを決定した。

○平成6年11月2日（水）（第2回）

「21世紀に向けた日本の責務—アジア太平洋地域の平和と繁栄に向けて—」のうち、国際文化交流の推進について参考人東京芸術大学学長平山郁夫君及び大阪大学教授青木保君から、アジア太平洋地域における信頼醸成の構築について参考人東京大学教授猪口孝君、防衛研究所第一研究部長西原正君及びジャーナリスト前田哲男君からそれぞれ意見を聴いた後、各参考人に対し質疑を行った。

○平成6年11月9日（水）（第3回）

派遣委員から報告を聴いた。

「21世紀に向けた日本の責務—アジア太平洋地域の平和と繁栄に向けて—」のうち、政府開発援助の在り方について参考人東京国際大学教授松井謙君及び新潟大学教授鷺見一夫君から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

○平成6年12月8日（木）（第4回）

国際問題に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。